

SGL042-02

会場:202

時間:5月23日 16:45-17:00

## 北上山地花崗岩に発見された褶曲；花崗岩も褶曲する、花崗岩のエクスヒューム Folded granite with axial planar foliations, the Cretaceous Kitakami type granite, north-east Japan

遅沢 壮一<sup>1\*</sup>, John Wakabayashi<sup>2</sup>  
Soichi Osozawa<sup>1\*</sup>, John Wakabayashi<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 東北大学理学研究科地学専攻, <sup>2</sup> California State University, Fresno

<sup>1</sup> Tohoku University, <sup>2</sup> California State University, Fresno

北上山地では、花崗岩プルトンの定置・冷却上昇とスレート劈開の前後関係について、必ずしも解決されていない。花崗岩のフォリエーションがマグマ由来か、構造的かについても、中間説も存在する。

陸前高田の気仙川花崗岩の海岸露頭で、アプライト岩脈をマーカーにして、花崗岩に褶曲が認められるのを発見した。基本的にはこれらに発達する高角面構造が褶曲軸面をなして、ステレオ解析からも、これが構造的褶曲で、面構造はスレート劈開（実際は左ずれ成分を伴う；石井、1990）に対応することは明らかである。鏡下では、輝石や茶色角閃石の残晶に重なって、面構造に平行に、緑色角閃石、黒雲母が晶出し、石英には形態定向性が認められる。

北上山地で多くを占めるアダカイト花崗岩には、構造的な面構造は不明瞭である。上記の気仙川岩体は恐らく古期に定置した花崗岩で、そのため構造変形を被り得たと考えられる。いずれにせよ、花崗岩プルトンを含めた北上山地古期岩類は、トランスプレッションの場での大規模正立褶曲を主要因として、エクスヒュームした。宮古層群基底は、褶曲縁のデタッチメント断層を表しているかも知れない。これら変動はイザナギ-クラ海嶺沈み込みが引き起こした大島造山運動の1表現である。

キーワード: 気仙川花崗岩, アプライト岩脈をマーカー, 非対称褶曲, 軸面劈開, エクスヒューム, イザナギ-クラ海嶺沈み込み

Keywords: Kitakami granitic pluton, aplite marker, asymmetric fold, axial planar foliation, exhumation, ridge subduction